



ダルマ (座繰器)

糸づくりを手がけてきました。現在、養蚕農家も減少し、岐阜県美濃加茂地方から繭を仕入れていきます。

ながはまの文化財
市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、438件※ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。
※平成24年6月1日現在

国選定保存技術
邦楽器原糸製造
(木之本町邦楽器原糸製造保存会)
平成3年11月16日選定

いかに糸の里
邦楽器原糸づくり

古くは、平安時代に始まり、江戸初期から本格的に農家の副業として繭から座繰生糸が盛んにつくられてきました。かつては、余呉川流域と草野川流域の集落で盛んであったと言われています。

両地域で作られる生糸には特色があり、余呉川流域では、主に邦楽器系(三味線や琴の弦など)の原糸がつくられ、草野川流域では、能装束や高級織物用の生糸等がつくられました。

今回は、いかに糸の里と呼ばれる余呉川流域の地域を紹介いたします。作業の最盛期は6月から7月で、繭から生糸を取る作業は、いくつかの作業工程とおして行われます。昔は、糸取り農家が養蚕から糸づくりを手がけてきました。



ワラ箒での作業

最初に火を入れた炉の熱風を繭に当て、中の蛹を半殺す「殺蛹」の作業を行います。繭から糸を出して生糸を取り出します。この作業を「座繰」と言います。座繰作業で用いられる道具が座繰器で通称「ダルマ」と呼ばれています。座繰器の中央には、熱湯を入れた鍋があり殺蛹した繭を入れ、「ワラ箒」を使用して糸口を探しながら20本ほどにまとめて引き出します。繭を入れた鍋は、常時70度から80度に保つ必要から一日中火気で下から温められます。まるで蒸し風呂のような所で汗を拭きながら作業が続けられます。繭一個から一〇〇m以上の糸を取り出すと言われます。



手前が大枠で奥が小枠

座繰器から「小枠」に巻き取った生糸は、さらに「大枠」に巻き返しを行い、一束を四〇〇匁(1.5kg)の単位に糸を揃え、一束ずつの生糸を束ねて完成します。

原糸づくりが行われてきたこの地域は、湖北の糸繰農家を舞台にした小説「湖の琴」(著者 水上勉)で紹介されています。この作品は映画化され全国的に知られるようになりました。琵琶湖の北端に平安時代頃の貴重な生糸づくりの技術が今も受け継がれています。

※掲載の写真・図は木之本町邦楽器原糸製造保存会の承諾を得ています。
※参考資料
「邦楽器原糸の原糸づくり」

問文化財保護センター
(☎64-0395)

H25 前期

長浜サンパレス講座受講生募集

◆募集要項◆

- 【開講期間】 4月～9月(一部講座を除く)
【対象】 18歳以上の男女(一部講座を除く)
【申込期間】 3月10日(日)から 初日は8時30分受付開始
【申込方法】 長浜サンパレスにある申込用紙に記入のうえ、申込みください。(受講料納付は初回日)
電話、FAXによる申込、申込予約は受付できません。定員になり次第受付終了となります。
【その他】 定員に満たないときは開講しない場合もあります。お支払いいただいた受講料は原則としてお返しできません。受講料には教材費が含まれます。(語学講座はテキスト代別途)

Table with 2 columns of course information including course name, dates, fees, and enrollment. Includes categories like Language, Cultural Education, and Materials.

下記サークル会員も同時募集します!!

- 陶芸(火10時～15時)
●茶道(遠州流)(金12時～17時)
●油絵(水9時～13時)
●風太極拳クラブ(金19時30分～21時)
●琴・三味線(木19時～21時)
●華道(池坊)(金17時30分～20時)

講座・サークルの詳細はサンパレス等に設置のチラシまたは電話で問合せください。

問長浜サンパレス (☎64-1444) 受付時間 平日・土9時～21時、日・祝日9時～17時